

公益信託うつくしま基金 第6回後期助成活動実績報告書（ホームページ公表用）

平成 21年 5月 30日

1 実績報告者

助成受給者 (団体)名	(フリガナ) 特定非営利活動法人 グリーンエネルギーユーズ
----------------	----------------------------------

2 活動名称

週	末	フ	ォ	レ	ス	タ	ー	養	成	プ	ロ	グ	ラ	ム	の	開	発	事	業				

3 助成コース・助成額・活動期間

助成コース名	スタートアップ支援コース (10万円以下)	助成額	事業費総額	
※助成を受けたコースに ○印を付け、助成額・事業 費総額(実績)を記入して 下さい	○ 100年後も…いきいき ふくしま うつくしま (県民運動) 実践コース	30万円	48万円	
	※県民運動実践コースの 場合は右記のどの重点 テーマに該当する活動 か、該当するものに○ をつけて下さい。			○ 地域コミュニティの再生
				○ 子育てしやすい環境づくり
				○ 環境問題への対応
活動期間	平成 20年 10月 1日 ~ 平成 21年 3月 30日			

4 実施した活動の実績・成果

(1) 実施した活動の内容

平成20年10月より、既存の林業技術養成についての講座やプログラムなどの情報収集を行った。その上で週末フォレスターについての骨子を検討し、養成のために必要な講習内容についても検討を重ねた。

例年参加している林業祭やものづくりフェア等のイベントにおいて、木質ペレットストーブの展示実演とともに、計画中の週末林業についての構想について来場者に説明し、感想や意見等の情報収集を図り、参加者を募った。古殿町に於ける「薪刈りツアー」は通常林地に残される小径の間伐材を、ワークショップ形式で人力にて林道まで搬出し、薪用に短く切断したものを参加者に持ち帰ってもらうという、未利用材の有効利用を図る試みであった。林業施業の実際、伐倒作業、チェーンソーや枝打ち機等林業機械についての学習の場面も設定した。只見町では、雪上で行う高樹齢木の素材生産現場、製材所での木材加工現場を見学するとともに、間伐作業やチェーンソーの使用方法についての体験学習も行った。

(2) 活動の成果

3年計画の初年にあたる本年度は、週末フォレスターについてのプログラムの骨格作り、実施フィールドの検討、森林施業講習のトライアルを行う計画であった。概ね達成することが出来たものの、県内3カ所で行う予定であった森林施業講習が、準備期間が足りず、古殿と只見の2カ所だけになってしまった。

古殿町でのワークショップでは、県外からの参加者も含み、約20名が参加した。地元協力者やスタッフを含めると総勢50名程での作業となり、かなり活気がある現場となった。小径木も短時間でかなりの量を搬出する事が出来、多彩なプログラムや、昼の炊き出しによるもてなし等で、参加者からの好評価を得られた。天候の加減で一度順延をした為に、参加者が予定の半数近くに減ってしまった事が残念であった。

只見町での研修では、約10人の参加者であったが、本格的な作業現場の見学や、実地体験を含んだ講習内容が好評だった。さらに地元参加者との意見交換を活発に行う事が出来、只見町をフィールドに進める週末林業についてのビジョンを共有する事が出来た。研修後、地元で活動しているNPOとの連携が進んでいる。只見の豊かな自然を背景にした、内容の濃い研修が行えるフィールドに成りそうである。

(3) 今後の課題

既存のプロ養成の為の講習等との差異を、明らかにする必要性を感じた。林業の現場は、危険が伴うとともに、高度な知識に裏打ちされた経験も必要となる為、週末だけといえども時間をかけた訓練が必要であり、その時間を働きながら作り出さねばならない参加者が、楽しみながら継続できる環境を整える事がこの事業の成功の鍵だと思われた。

研修のフィールドは、古殿・只見・霊山の他に、やはり、福島・郡山・会津若松等の都市近郊にも設けた方が参加者の利用の便は良いと思われるが、他のNPOとの連携を図るなどをしなければ、実現は難しいかもしれない。次の展開としては、養成プログラムの体系立てた具体的メニューの作成、各フィールド毎の地元との連携による特色強化、推進の為の広報活動や運営専用の組織づくり等が挙げられる。

【 写真貼付用紙 】

事務局 使用欄	受付月日	
	整理番号	

助成受給者 (団体・グループ) 名	特定非営利活動法人 グリーンエネルギーユーズ
----------------------	------------------------

活動の実績を表す写真を1枚以上貼付して下さい。(デジカメ印刷可。大きさ、タテ・ヨコ問わず)

